

☀ 花・星・人 in 南竜 ☀

2000年8月5日(土)～6日(日)

※参加者

0期 田村 昭夫	4期 高田 昌嗣	7期 村田 泰恵	8期 伊予 欣二
11期 青柳 健二	11期 森川 功	11期 斎藤 薫	11期 井上 聖子
13期 吉田 穂積	15期 上馬 康生	15期 奥名 正啓	15期 鈴木 良紀
15期 間所 新一	15期 高村千佳子	15期 佐野 哲雄	15期 舟田 節子
15期 松林 知一	15期 松林由佳里	15期 松林知恵里	15期 宇野 潔
17期 宇野 和子	15期 宇野 春菜	17期 山田 郷美	18期 椿川 利弘
18期 大西 正明	18期 大西 菊路	18期 大西 沙紀	18期 大西 真実
18期 岡部 伸一	18期 岡部美沙貴	18期 岡部 沙矢佳	23期 鳥越 伸博

決算報告

【収入】

会費	
4,000×31	124,000
OB会補助	46,150
	170,105

【支出】

宿泊費	49,100	(テント代 3,700×5	18,500)
		(清掃料 300×22	6,600)
		(ケビン 12,000×2	24,000)
食費	92,450	(山荘食事代 2,800×31	86,800)
		(ここで支払い得	10,000)
		(ビール	9,750)
		(スイカ、つまみ	5,900)
連絡費	8,530		
写真代	20,025		
			170,105



「花・星・人 in 南竜」 によせて

15期 奥名 正啓

ワングルに入って最初の高山帯へ足を踏み入れたところが白山だった人は多いことでしょう。多分私もその一人です(記憶が曖昧)。それから四季を通じ幾度となく訪れて、それぞれに思い出があるに違いありません。

8月5日。下界は連日うるような暑さが続き、白山では朝方から屋前までは晴れているものの午後は決まって大雨に見舞われていました。この日も例外ではなく昼近くになって曇の助ヒュッテあたりからはガスが吹き上げてくるようになり、雷鳴も轟きはじめました。しかしながら皆さんの切なる願いを天は聞き届けてくれたのでしょう。ガスとわずかな小雨程度で午後には持ちこたえてくれました。夕食の6時頃にはお日様さえしはじめてきました。この時期の日没は7時頃。大地は闇に沈みはじめ、雲は夕日をうけて縁を白く輝かせ、空は深い青に染まってくる。山際は水色から次第に黄味、赤味を帯びて朱色から暗赤色へのグラデーション。食後の一時を過ごしながらかく々と色を変えていく山、雲、空はボーと眺めているにかぎる。

6日朝。御来光鑑賞組は出かける準備、空を仰ぐといくつかの星。天の川は見えない。しばらくして暗さに目が慣れてきても星座はよく分からない。時折一直線に移動する人工衛星の光

が見える。朝日が油坂のてっぺんあたりを照らし出す。見る見るうちに明るい部分は下がってくる。エコーラインののっぺりした面にも朝日が当たる。油坂の飛騨側にははやくも真っ白なガスがはい上がってひんやりとした朝の冷気を感じる。夏の朝だ！

七倉山と四塚山にはさまれた北竜。日の出前、夜の闇はすでに少しずつ白みはじめて濃い暗紫色の空気が谷筋に沈んでいる。朝の仕事も忘れてしばしばぼんやり佇んでいると、みるみる明るさを増して薄紫から水色へと移り変わっていく空。それまでに見たこともない色合い。かすかに感じる風……。

しまっておいた記憶が甦るとともに、また一つ新たな想いが刻まれた。

皆さんの胸の中にも何かしら一つでも素敵な想いを残してもらえたでしょうか。

今回は白山へのきっかけを作る、あるいは場をセッティングすることだけにとどめることでこの企画を進めてきました。それでも運営に当たり骨を少し折られた方、あちこちにお誘いをかけて下さった方、天候を心配してお祈りをして下さった方、現地への車を提供して下さい下さった方、差し入れを下さった方、そして何よりも集まっていたいただいた方々に感謝します。

「花・星・人」＝自然と仲間。これがワングルの原点です。



宇野 山田

松林 舟田 高村 高田 森川 伊予 宇野 佐野 吉田 鳥越 鈴木 間所

青柳 上馬

田村 岡部 椿川 松林 宇野

井上 斎藤 奥名 村田 大西

大西 大西 岡部 岡部 大西 松林

【南竜ケビン前 参加者全員】

栄光、吾をば去りぬ

0期 田村 昭夫

別当出合までもう少しの時、急に雨が降りだした。村田、田村、高田の三「田」組は、雨具を付けて、下山を続けた。中を歩く田村の足が急に弱り出したのは、この時からである。

先を行く村田は杖の威力を見せてスイスイと下って行く。後から来る高田のしっかりした足音が迫ってくる。数々の山歴を重ねた田村の黄金の両足はもはや鉛と化し、それを動かしているのは、ただ、過去の栄光とのポテンシャルだけである。

やがてそのポテンシャルも使い果たし、哀れ田村は力尽きて、ぬかるみの山道に転倒したのであった。二度、三度苦しみ、もがいた末、やっとのことで立ち上がったが、そこにはもはや往年の元気洩刺たる山男の姿はなかった。老醜をさらす、一人の爺がいるだけだった。

その間、彼の耳には若い頃よく唄った「北帰行」の一節、「栄光われをば去りぬ…」が聞こえ続けていたのだった。老鳥の目に光る涙を見たものは誰もいなかった。雨が、それを流してくれたから。



KUWV 同巢会員へ告ぐ

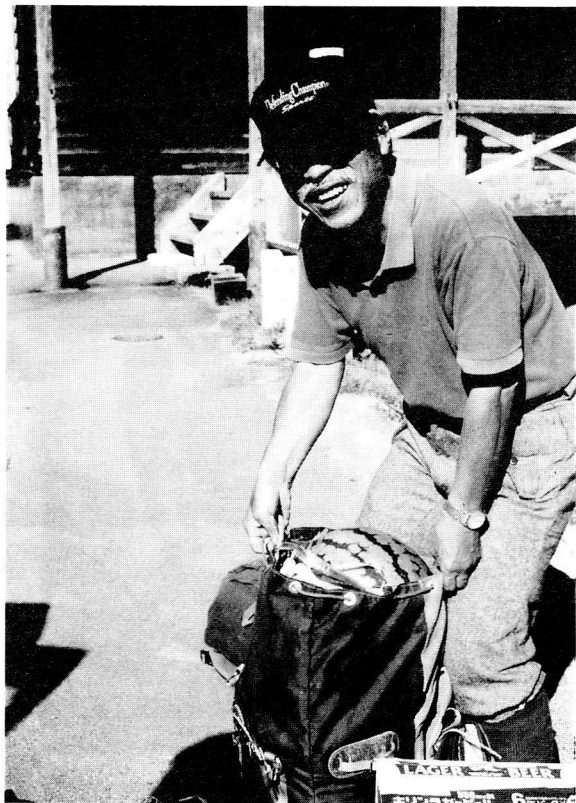
0期 田村 昭夫

わが金沢大学ワンダーフォーゲル部の卒業生には、毎年事務局が企画している行事に、少なくとも一回は参加する義務があると思う。

春、秋の「山小屋酒場」、夏の白山、冬の野沢がそれである。

これ等の行事に一度も参加しない卒業生は、もはや同巢会員ではない。それ等は泣きながら巣を去っていただきたい。勤めが忙しいなどとは単なる言い訳に過ぎない。同巢会長や事務局長その他の方々のご苦勞を考えれば、知らぬ顔の半兵衛では済まされない害である。

同巢会員諸氏の猛省をうながす次第である。そして、体の自己管理は絶対に行なって欲しい。煙草などもっての外である。



【馬鹿でかスイカをさっと、我がザックに収めてしまわれた田村先輩。教祖の心意気ここにあり。このザックは奥名会長と交互に背負われていった。ワングル教祖とOB会会長は名誉職ではない！会長は実は、半分に…も想定して、包丁、サランラップも用意していたが、KUWVの意地が妥協を打破。また、小スイカの方は17期宇野さんの妹さっちゃんが忍ばせて(?)くれた物。それらの残飯は、翌日椿川さんが担ぎ下ろしてくれた。多くの心遣いに支えられた、
「花・星・人in南竜 ミレニアム白山」】

FROM: "高田昌嗣"

SUB: 花・星・人in南竜から帰って

今回は38年振り、11回目の白山山行でした。出会ったOB諸氏は、夫々自分なりの登山を生活の中に組み込んで活動している様で、大変羨ましく思った一方、古いOB連の数が少なかったことは残念でした。

何事も一旦中断してしまうと、その再始動には実に大きなエネルギーが必要なことは、日頃いろんな局面で経験するところです。多忙な毎日の生活に追われている間に30数年の月日が流れ、体力的にも今一つ自信が持てずに、参加の決心がつかなかった人も多かったのではないのでしょうか。

確か女流登山家の田部井さんが、
“最近はやりの熟年登山で最も危険なのは、昔かなりやっていてその後長い間中断し、最近急に再開した人達”

と言っていました、まさに自分にぴったり当てはまっていて、再始動には慎重にならざるを得ませんでした。

磐梯山登山のトレーニングを積んで万全を期した、悪天候で流れの35周年白山登山とは異なり、再挑戦の今回は、準備不足のぶっつけ本番でした。他の皆さんの足手まといとならない様、正直に言えば醜態を晒さない様、皆さんより先に登ってトレーニングをすることにしました。

南竜集合日8/5の2日前の8/3の13時30分、別当出合いの駐車場から小型テント、食料他を担いで体調を見ながらゆっくりと登り始めて16時20分基之助避難小屋着。夕方になって人の往来が途絶えて無人となった小屋が気に入ってそのまま宿泊。

翌8/4は早立ちして南竜にテント設営完了したのが6時55分。7時30分よりエコーラインを登って、御前峰、池めぐりコース、室堂、展望歩道経由で13時40分テントに戻る。

8/5は5時45分にテントを出発して8時に別山山頂着。ここでキツネに出会う。早朝で他に登山者が居なかったせいか、逃げもしないで300メートル位後をついてきた。

帰りに油坂を下りきったところの谷の水場でサンショウウオを見つけて30分ほど観察。上流より下ってきて岸辺の流れのないところで一休みし、それが下っていくとまた次のが流れてくるといった具合で何時まで見ていても飽きない。

11時35分テント着。テントの中で昼寝をしていると、“高田さ～ん”と遠慮がちに呼ぶ女性の声。外に出てみると舟田さんで、ケビンの本隊と無事に合流。

8/6は南竜山荘での朝食の後に解散し、田村さん・村田さんと3人でエコーラインを登り、観光新道経由で別当出合いへ下る。馬のたてがみ付近の見事なお花畑と、最後の30分位豪雨の中の下山が忘れられません。

滑って転んで、水が流れる中で起き上がれずにもがいていた人（特に名を秘す）もいましたが、過去の栄光とプライドの後押しを受けて最後まで独力にて別当出合いに降り立ちました。この頑張りには敬意を表する次第です。市ノ瀬の永井旅館で飲んだビールと温泉は最高でした。

今回の収穫はOB諸氏に再会できたこと、白山の良さを再認識できたこと、キツネとサンショウウオに出会ったこと、自分の体力の現状につき見極めがついたことです。また機会があれば参加するつもりです。

その時にはもっと多くの古手のOB諸氏にも会えることを楽しみにしています。今回の私の様に少しゆっくりしたスケジュールと、ある程度



11斎藤 11井上
18椿川 0田村 8伊予 15上馬 4高田
17宇野 15高村 11青柳 15佐野 15舟田
17山田 13吉田

【南竜山荘前 朝食後のひととき。】

の日頃の陸トレをやっておけば、再始動もそれ程難しくないと思います。4期 高田昌嗣



8期 伊予 欣二

約10年ぶりの白山でした。

室堂センター建替えの為のヘリコプターの騒音を除けば、天候にも恵まれ、例年より多い残雪の御蔭でお花畑も楽しめ、懐かしい先輩の方々のお顔に、青柳・森川両君の元気な顔、頼もしい15期、18期の方々にもお会いできました。それにお母さんの若き日にそっくりの井上さん姉妹にお会い出来たことも！！

また時間を作って山へ行こうという気になりました。

一人でのんびり山を歩いていて、山の大きさに生命（いのち）を吹き込んでもらった、元気をもらった気分でした。

あの時、裏銀から黒部五郎を歩いてきた奥さんは、先日（8/19、20）白山へ行って、クロユリ、ハクサンコザクラ、ハクサンボウフウ、ニッコウキスゲ…etc. まだまだきれいよかったと、10数年ぶりの白山を振返っていました。

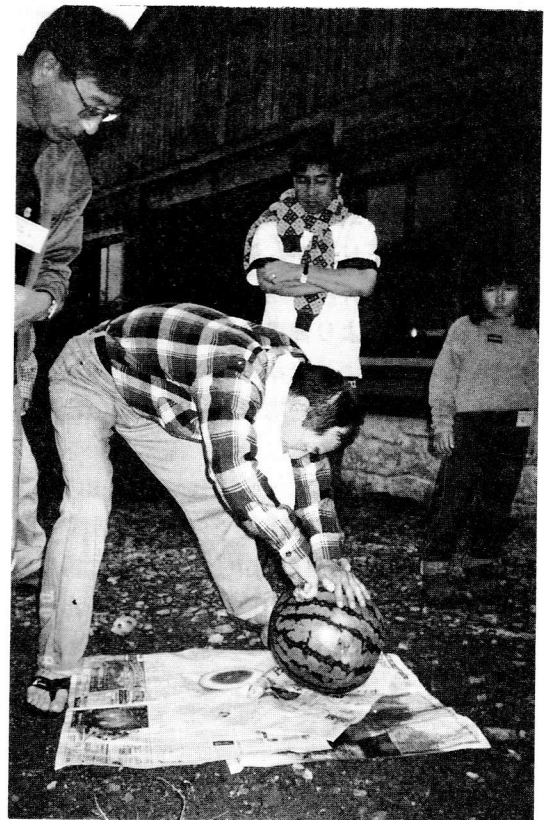
30年ぶりに歌を歌って、歌詞がスラスラ出てくるのが不思議なくらいでした。

お世話になるだけでしたが、これからもよろしく願います。ありがとうございました。

（追 写真、CDありがとうございました。）



ニッコウキス



【スイカ割りから、テント設営から、食堂の場所取りから、サツと体が動いてしまう伊予先輩。森川さんがビビッてらした点からも、現役時代が髣髴。野性味あふれた時代のワングルの貴重なお話を窺いました。】

11期 井上 聖子

花・星・人のみなさんへ

8月5・6日はありがとうございました。あまりに楽しかったので、未だ白山の話題で盛り上がっている井上家です。今、B.G.M.に父の「白山の尾根」が流れています。

私達の6日の行動は以下の通りです。

- 7:30 南竜発 トンビ岩コースにて室堂をめざす。舟田さんに教えてもらった花の名前をおさらい。
- 8:30 トンビ岩到着。青柳さんの「ヤッホー」が白山にこだまする。
- 9:10 室堂到着。上馬さんの地図通り1:40で到着。
- 9:30 室堂より御前峰周遊。森川さんの助言通り室堂に荷物放置。ちちょ有情にて30年前の父と加藤さんの写真と同じポーズで青柳さんに写真をお願いする。
- 10:40 室堂再着。頂上で大西さんご家族、途中で松林さん親子に出会う。
- 10:50 室堂出発。下山。今回多大なるお世話をおかけした青柳さんと涙の別れ。
- 1:00 別当出合到着。バスに間に合うよう砂防新道を駆け下りるが、最後の30分間は雨の中下界をめざす。
- 18:00 青柳さんより無事帰れたか確認の電話。
- 19:30 舟田さんより無事帰れたか確認の電話。
- 翌朝7:00 祖母より無事帰れたか確認の電話。

薫は家に帰り、父に夕食を作り。登山の報告。聖子は父を待たずに居間で熟睡。寝言で「テントのライトが、ライトが…」と盛んに繰り返す。父、姉に「まだ白山にいるらしい」と笑われる。ホンニンは「クーラーの風があたりて寒

い」と言ったつもり。

本当に白山は素晴らしかったです。いつになく、全員の気持ちがひとつになった井上家は、9月または10月に家族で白山登山を計画中。聖子は8月中に、友人と日帰りの白山登山を計画中。

ただ、今回残念なことに、やはり「写るんです」はちっとも写真が美しくなかったです。現像をして予想以上にがっかり。今度はカメラを忘れないぞ。

これだけ書いてもまだ興奮覚めやらず、といったところですが本日はここまで。本当にありがとうございました。これからも是非お誘い下さい。

SUB: 白山はいいなあ。

井上家ミレニアム登山2000無事帰ってきました。8月とはまた違う花が咲き乱れ、違う一面をみてきました。一番の不安だった天候も少々の霧雨テイドで、10日には晴れ間ものぞいて、少しばかり日焼けをした4人です。前回の白山を思い出しながらの登山となりました。

9月9日

9:00 別当出合出発。(砂防新道)今回はしっかり恐竜の足跡で記念撮影。

11:00 別当親到着。確かここから30~40分で甚の助到着と思ったが30分たっても到着しないので休憩。その後3分後に甚の助到着。爆笑。8月の教訓を生かし、冷凍果物とビールで回復。この辺から霧雨になり南竜へ急ぐ。南竜分岐から南竜へ(通称ランランコース・母命名=平坦で楽だから)

14:00 南竜馬場到着

20:00 あすの晴天を期待し就寝。



【別当親にて やはり若い！
澆刺井上姉妹と、松林家次女。
昔の白山記念山行では、こんな
元気一杯の現役お姉さんが、O
Bの子供達の手を引いて登って
くれたものでした。受け継がれ
てほしい光景でした。】

9月10日

10m先までしか見れない霧のためご来光はあきらめる。

6:30 南竜出発。エコラインより頂上を目指す。だんだん霧雨がひどくなる。

8:15 室堂到着。ひどいガスのため、頂上はあきらめる。

10:30 観光新道にて下山。このあたりから晴れ間が見える。馬のたてがみまでは今回一番の花畑。タカネマツムシソウなど観光新道ならではの花が咲き乱れる。(by白山花ガイド) 殿ヶ池までは青空のもと絶景を楽しむ。砂防・別山・殿ヶ池・釈迦岳全てを眺める地点で1時間の休憩。しかしいここからは悪夢の斜面が…。観光新道は絶対登りには仕様すべきではないと確信。

14:30 別当出合到着。最後の5分はスコールに見舞われる。

今回はトリカブト・リンドウ・タカネマツムシソウ等々紫色の花が美しかったです。チングルマは風車になり、ナナカマドには赤い実がついていました。天候がいまいちだったので風景があまり楽しめなかったが、2日目の観光新道は前半だけ感激の嵐!!

そのころ金沢は大雨・洪水・雷注意報が…。母は心配のあまり、南竜山荘・予約センターに電話をしていました。おまけに、「警察から一人行方不明という連絡が入る」という夢を見ていました。山の方が天気がいいなんて珍しい。それではまたの報告を。

FROM:KENAOYAGI@aol.com

SUB:白山最高!!

11期 青柳 健二

1週間ぶりに自宅に戻り、ほっとして、どっと疲れがでています。10日の連続休暇も、後1日。ちょっと淋しい気分にもなっています。

皆と別れて、白山を倍楽しめました。7日には大汝を巻いて、お池巡りをし、大汝に登った。朝霧に濡れた花々をタププリ時間をかけて写真に撮った。ただ、今回の白山の特徴の昼の夕立にもまれ、10時過ぎには雨が降り出し、黒ボコを越えてのところで土砂降りになり、高飯場では、1時間近く沈殿。川となった道をヒイヒイ下ったのでした。

井上薫・聖子さん

やや強引な誘いに乗ってもらって、白山に大満足してもらって、こちらもハッピーな気分です。いや、予想以上の健脚に参りました。2日目は室堂泊りで助かった私です。トンビ岩を登り、御前峰に登ったところで、足と膝に來手ていました。お二人のペースの下山には、正直ついて行けなかったでしょう。

秋には、家族で白山を計画とのこと。結構な事です。ただ、日帰りでは勿体無い。ヤッパリ色んな白山をタププリ楽しむためには、1泊以上しないと不足です。そして、二人のペースには、両親ともついていけないでしょうから。

かく言う私も、スキーだけではなく、山を復活させようと思っています。ヒイヒイ登っても山頂に立った時の爽快感と達成感は格別です。秋には、白山から見てヤッパリ登りたいと思った御岳に、森川さんと登ってみようかな。



奥名 松林 松林 高村 井上 斎藤 大西 椿川
舟田 田村 村田 青柳 大西大西大西
【別当出合発9時の”本隊”。嬉しい登山日和】



奥名会長と舟田事務局長様

ヤッパリ白山はイイ！15期の拡大企画、大成功でした。まさか伊予さんに会えるとは、思わなかった。スイカを担ぎ上げた、田村御大の馬力には脱帽。何より、高村さんを加えた15期の団結力は羨ましい。

今回の白山、ハクサンコザクラと、クロユリの乱れ咲きに圧倒されました。また新しい白山を見つけた気がします。思えば、合宿と重なるこの時期の白山へは、初めて登ったのだ。その分、ハクサンフウロとハクサンイチゲの群落が少なかったようだ。また機会を作ってください。まだ知らない白山を見ることができるよう。

せっちゃん

早速写真を送って頂き有難う。皆イイ表情をしていて、良い写真です。

当方、一脚なるものを始めて本格的に使ったが、出来栄はもう一つ。いや、白山の写真は難しい。槍・穂高はスナリ、絵になるが、白山はなかなか掴みづらい。早々とガスが巻くいた御蔭で、山の写真があまり撮れなかった。その分、花の写真に力を入れたが、光と花の表情を撮るのが難しい。この白山で、お金を取れる写真を撮っている、上馬・梅の両君は尊敬に値します。という訳で、会報向け写真は残念ながら、修業を積んだ次の機会に持ち越し。三脚をシッカリ帯同した。村田先輩の作品に期待しましょう。

原稿の方は、井上家の聖子ちゃんを推薦します。白山初登山でも、コースタイムを記録する余裕を持ち、親譲りの好奇心で白山の素晴らしさをタプリー吸収しました。親譲りの文才にも期待できます。強く重ねてプッシュしてみてください。

さて、待遠しかった夏休みもあと一日。人様

がお盆休みを取る頃には仕事ですが、次の夢の日を求めて、また色々思いを巡らそう。スキー・山・カメラ・パソコンなんでも手を出す、そんな軽率さが我が取り柄か。まあ色々手を出しながら、それなりに進歩していくつもりですので、その道のプロのテクニック、今後もご教授下さい。

さて次のイベントは何ですか？またタノシイ企画を期待しています。宜しく。

FROM:MORIKAWA

SUB:RE: 白山最高！！

11期 森川 功

無事下山おめでとう！それも二人だけで！（でも、次回からは経験者と行動して下さい。昔よく言われたことに、山は登りに体力の1/3下りに1/3、そして下山してからのかわいい？彼女のために1/3…つまり余裕を残して）

でも、室堂から2時間とはすごいですね。私は南龍から別当出合まで3時間かかりました。それも、上馬君という一流のガイド付きで、彼の杖を借りて。安全にゆっくり下山したつもりでしたが、やはり足が痛い。白峰の総湯でゆっくり温泉に入り、足を揉んだのに。

その後、白峰の林西寺で昔、御前峰や別山に安置されていたが、明治の神仏分離令で廃棄されそうだった仏像を見てきました。昭和55年？に本堂の横に白山本地堂を設け、一般開放しているとのこと。ただ、私も上馬君も、開放前に本堂の裏に安置されているのを見た記憶がある。案内の優しい女性の説明によると、開放前は何かコネがないと観れないとの事。その女性の説明だと、昔は白山山系には6~7000体の仏像があったとの事。秋には是非参観して、優しい女性の説明を聞いて下さい。その女性の声を聞いているだけで、仏像の優しさが胸にきます。

上馬君とせっちゃんと青柳さんにゴマをすれば、希望の写真が手に入るでしょう。二人の参



【展望コースの展望台にて。

ミレニアムの御来光】

青柳 田村

鈴木 上馬 佐野

井上 斎藤

(by森川)

加で南龍は楽しかったです。老井上夫妻にもよろしく！次回野沢温泉で会いましょう。もちろん、薫、聖子令嬢も一緒に。

SUB: 凄い！

15期の森川です。凄いですね。さすが我が15期は凄いですね・もう少し鍛練して15期に入れてもらいたいと思っている人もいますでしょう。

(アオヤギさんは秋には濁河温泉へ行くよ。)

こういう記念品がもらえるなら、来年の15期会も是非参加させてもらいたい。(でも、少し小さな希望を言わせて貰えば、カメラは会長には重いでしょうから、幹事長にもってもらった？)

ありがとう。21世紀の野沢は、奥名会長と加藤父さんの2大競演が楽しみです。

13期 吉田 穂積

8/5 別当出合-エコーライン=御前峰
-南竜

8/6 南竜-別山-千振尾根-市ノ瀬

8月4日夜11時頃、金沢の家を出た。夏山交通規制中ではあるが、別当出合まで入れるかもと期待したが、0時半に着いた市ノ瀬には、おっちゃん二人がしっかり見張番。「5時になっ

たらバスが動きますので、それまで車に居て下さい。」との事。

星空がきれいだ。天の川を見るのも随分久しぶりの気がする。車で仮眠するが、時折到着する車のふかすエンジンの音、ドアを開める音がうるさく、ウトウトしても目が覚めてしまう。

結局、起きたのは6時近く。パン食を済ませ、別当出合行きのバスに乗る。足の筋を伸ばしさあ出発と、数歩歩きだしたところ、何やら見覚えのある顔。ン、間所だ。佐野もいる。宇野も。あと一人誰だか判らない(途中で聞いて、鈴木と判る…ゴメン)。

佐野がトップで出発。さすが山に登っているだけにピッチが速い。他の三人は山に登っていないし、これといった運動もしていないらしいが、よくついていっている。私は、そろそろ限界かなと思いながら、別当視までついて行けた。途中「速すぎる」と文句を言っていた宇野がトップを交代し、ペースを落としてくれたので、案になった。甚ノ助小屋で休憩していると、別当で後発の宇野の奥さん、娘さん、義理の妹さん一行が到着。彼女達は、花を愛で、話をしながら余裕で登ってきたらしい。しかし、たった15分しか変わらないではないか。

エコーラインの登り口で、南竜に直行する彼女達と別れ、我々は室堂へ向かう。弥陀ヶ原の



松林 山田

鳥越

高村 井上 宇野 鈴木 吉田 松林 宇野

斎藤 森川 上馬 宇野 松林

間所 青柳 伊予 田村 村田 佐野 奥名

【今、18期連呼んでくっからね！あ、高田さんも探さなくちゃ！】



ハクサンコサワラ

道はきれいな木道となり、五葉坂は工事中で通行止め。水屋尻雪溪脇に道がつけられている。

玄関の石組だけはそのままの、工事中の鉄骨組みの室堂前で昼食。間所達がビールを買ってきてくれたが、酒の弱い私は、飲んで歩く自信はないので、遠慮する。宇野、佐野はここで引き返すというが、ビールを飲んだ鈴木、間所は頂上へ向かうという。私も同行する。奥宮まできれいな石畳に整備されている。ガスで展望の良くない頂上で記念撮影をして、水平道に戻ると、9時別当集合の一団に出会う。村田さんや奥名の顔が見える。南竜山荘では一足先に着いていた舟田さんの笑顔が迎えてくれた。

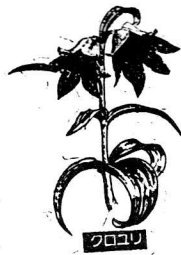
今晚の宿であるケビン、テント場に着く。懐かしい顔、初めての顔。あちこちで話の花が咲き、夕食までのひとときを、写真を撮る人、花を探しに行く人、酒を飲む人、思い思いに楽しむ。

南竜山荘での夕食後は、ケビン前でスイカを食べながらの自己紹介。山上でのスイカは夏合宿以来だ。楽しみではあったが、一番厄介な荷物だった記憶がある。

ケビンでは夕食前の部に引き続き、酒宴が始まる。伊予さんの隣に座っておられた森川さんは、私をその間に座らせた。どうも、コワイ先輩は何年経ってもコワイものらしい。田村さんの人力車の話は何度かお聞きしたが、今回は、村田さんによる裏話も聞くことができた。能登の某所に移り住んだ夫婦の、夫の死後、奥さんがエライ目にあいかけた風習の話が村田さんから出た所、実は倉谷にも似たような風習があったんだという上馬の話。隔絶していた地には、思いもよらぬ因習がわずか昔まで残っていたのだ。土間では、佐野、松林、舟田さん達が、ウィンナーや丸干イカを焼いて、次々と出してくれる。特大スイカをポックリしても元気の余っている田村さんや、前日は室堂泊まりという優雅な森川さんは、まだ余力が残っていそうだが、他の人は、腹一杯、疲れ一杯で、早めのお開きとなる。

テントの朝はやたらと明るい。快晴である。南竜山荘で朝食、記念撮影の後、それぞれのルートで帰路につく。私は前日御前峰に登ってしまっていたので、一人千振尾根を下ることにする。聞いてもすぐ忘れてしまう花の名前を、今回は少し覚えて帰ろうと思う。

南竜の湿原で、今朝山荘で買ったばかりの「白山・花ガイド」を開いて、一つ一つ照合しながら歩く。花の色別で探し出せるのでわかり易い。こうして花を見ながら行くと、油坂も苦にならず、天池に着いた。



池端に寒天状の塊がある。中にオタマジャクシが見える。クロサンショウウオらしい。親が何匹も底に這いつくばっている。ボウフラが垂直にクネクネしてうる。これは上馬が、昨晚スイカを食べている時解説してくれたハクサンヤブカであろうか。2、3箇所刺されて、余り保護したい気にはならぬが。4、5mm位の黒い水生昆虫が時折、息継ぎに浮上してすぐ潜ってしまう。また、妙なものが、あちこちで動いては止まる。長さ3cm、太さ3mm位の小枝のようなものが、数cmスーと動いては止まる。しばし観察していたが、正体不明である。水面に小さなバッタのような虫が落ち、もがいているので、何か水生生物が食べにくるか眺めていたが、バタツいて次第に岸に近付き、ついに草にたどりつき逃げていった。こんなにのんびりした山歩きをしたのは初めてである。

8時すぎからわき上がり始めた雲は次第に山々を隠し、11時すぎに着いた別山では、飛騨側は殆ど真っ白になってしまった。何種類かのおかずが、一種類になってしまった弁当を食べ、千振尾根を下ることにする。千振尾根避難小屋を過ぎ、お花畑を過ぎた辺りから、ポツポツ雨が降りだした。下界は降ってないだろうし、多少濡れるのもいいかとそのまま歩いたが、雷が鳴り始め、次第に雨も強くなってきて、パンツまで濡れてきた。これ以上濡れると、ズボンの滴で靴の中がグチョグチョになってしまうので、ちょっと遅きに失したが、雨具をつけた。落雷の恐れはないが、それでも間近で鳴ると怖い。泥流の山道をひたすら下った。

FROM:takamura chikako

SUB:宿題

15期 高村 千佳子

白山は3回目の登山です。

1回目は、1979年の夏、結婚した年。どうしても白山を見せたいと連れていかれました。主人と二人で登りました。朝一番の金沢駅発のバスに乗って行き、ただひたすら登りました。

2回目30周年記念登山に娘と参加しました。現役の学生さんが食事の用意をしてくれたり、娘と遊んでくれたりしました。お父さんの好きだった白山に、娘と登れてよかったです。

35周年も参加するつもりで、節ちゃん宅に前日から泊めてもらっていたのですが、台風で中止。

そして今回、3回目の白山。今度は一人で参加。前日は宇野さんのご家族に車に乗せてもらって、節ちゃん宅へ娘と二人で泊めて頂きました。練習もしないままの参加だったので不安でしたが、私達のペースに合わせてゆっくり、ゆ



【南竜分岐は満開のお花畑。我がOB会の華達。

ところで、今回参加の二代目、総勢9名は全員女性。金大ワングルに入ろう！の誓いもあったとか？】

松林 高村 村田 斎藤 井上

っくり登ってくれました。途中で食べた、節ちゃんが重たいのに一杯持ってきてくれた冷凍の果物の数々が、疲れを吹き飛ばしてくれました。また、お花畑が最盛期でとても綺麗でした。帰りは楽だろうと思っていましたが、下りの方が結構急で、とてもしんどかったです。でも、山でしか味わえない、山に登らないと分からない満足感を感じました。

お世話になった同期の人、参加した皆さんありがとうございました。

FROM:matouzu@p2222.nsk.ne.jp

SUB:写真のお礼&原稿

15期 松林 知一

早々と写真をお送り頂き、まことにありがとうございました。何もしない幹事で、会長、事務局長の足を引っ張ってしまい、申し訳なく思っています。ましてや、写真係をおおせつかりながら、肝心のカメラを車の中に忘れてしまうとは…。カメラを忘れるようになっては、新聞記者は失格ですね。だから、廃業したのですけれど…。

それではとりあえず、以下原稿です。メインの感想文は夏休みの宿題が終わり次第、娘達に書かせますので、私の分はその前書きということでお許し下さい。

8/5 別当出合ー南竜

8/6 南竜ーエコラインー室堂ー頂上ー砂防新道ー別当出合

何年ぶりかの白山でした。変わらぬ姿で迎えてくれたと、言いたいところですが、中飯場には立派なトイレができ、南竜にはケビンやピジターセンターができ、エコラインや弥陀ヶ原の登山道には木道い整備され、室堂センターは

改築工事の真っ最中。

でも、何より変わったのは自分の体でしょうか。かつては、確かに登れてたはずの登山道があんなにもきつく、あんなにも長かったとは。登りは甚之助ヒュッテのかなり前から足がつってしまい、下りでは黒ボコ岩の直下からヒザがいうことをきかなくなり、すさまじい雷雨の中を登りより遅いペースで、まさに泣き泣き足をひきずって別当出合にたどりつきました。(頂上へ寄り道をしていたため下山が遅れ、ひどい目に合いました。はくさんは12時過ぎからものすごい雨となりました。)

運動不足はよく承知しており、不様なことにならないようにと、事前に自分なりにウォーキングに励みトレーニングをしていたのですが、平地と山道、しかも空身と荷物を背負ってでは、状況はまったく違っていました。トレーニングもさることながら、自分の体をもっと軽くする必要のあることも、改めて痛感しました。

でも、登ってしまえば、ビールはうまいしスイカもうまい(自分で運んだわけではないので、胸は張れませんが…)。年に一度はこうして、懐かしい顔と山で出会えるというのはなんと嬉しいことでしょう。願わくば、生きている限りは体が動き、白山に登りたいとの心を失わないでいたいものだと思っていますが、意志薄弱の身にはちょっと荷が重いようです。

今回連れていった娘のうち、上の方は宇野さんちの春菜ちゃんと白山の上で

「いっしょに金大へ行って、ワングルに入ろう」と約束したようです。アゴを出したオヤジを尻目に、「今度は観光新道を通りたい」などと申しております。

だれが連れていってやるものか。お前達で勝手に行きなさい。その前に、金大へ行けるものなら行ってみろ。勉強しない人は金大には行け

ないんだからね。…と、オヤジは負け惜しみを
つぶやいています。

山でも様子や感想は娘達の原稿に譲ります。

次女 松林 由佳里

ふう、やっぱり登山は最高！「伊吹山、立山
に登っているのに、しかも石川県民なのに、未
だ白山に登っていないのは何たること！！」と
思い、今回の参加を決意しました。（というか
、登山なら絶対するつもりだったけど…）

他の山も楽しかったけれど、やっぱり白山は格
別でした！クロユリ（繻）たくさん見れたし。春菜
ちゃんにも会えたし。（15期宇野ジュニア）

今回意外だったのは、やはり父ですね。来年
50うえ、普段運動してないから…。ん？でも
おとーさんより年上の方もたくさんいるのに、
バリバリ登ってなかった？ふっ、やはり運動不
足ですね。娘2の私が先頭だったとゆーのに、
父がビリでどーする…

「ほっほほ、立場が逆転しましたわね、おと
ーさま？」

二日目に、我が一家はみなさんと別行動をと
り、山頂まで登ってまいりました。山頂もいい

けど、黒ボコとか、別のコースも歩いてみたか
ったナ…。ま、それは次の機会でいーか。（で
も父があれじゃ）

来年は、私中2、妹は中1になるわけですが
、ヒマがある限り参加させていただきたいと思
います。15期は毎年やってますし。うーん、う
ーん。考えてみれば、登ってみたい山が、日本
全国いくつもいくつもあるわけです。うーん、
中学、高校と忙しくなり、登山なんかしてるヒ
マなくなるなあ。やはりここは、金大に入って
ワングルに入る？そーなると私、みなさんの後
輩になりますね、ま、先のことはわからないし
…居間、言えることは、やっぱり「山は最高、
ワングル最高！」ーこんなものかな？

三女 松林 知恵里

今まで山はたくさん登ってきたけど、やっぱ
り一番きつかったなあ。井上姉妹や春菜ちゃん
と仲良くなれて良かった。お父さんはかなりの
年だから山はきついらいけれど、これからも
連れて行ってほしいです。私はまだ山に登りた
いです。



FROM: 上馬 康生<DZZ05040@nifty.ne.jp>

SUB: 南竜、私の2日間

久しぶりの白山山行は、ほんとうに「花・星・人」に出会うことができ、体の調子も
だいぶん良くなったことが分かり、収穫の多いものであった。計画された方、いろいろ事
務的なことをされた方、そして参加されたみんなに感謝の気持ちです。

8月5日

金沢を4時前に出て、市ノ瀬を5時に一人で出発。涼しい川風の中、数匹のオロロの
出迎えを受け、猿壁堰堤の左岸から登山道に入ってしまった。ブナやトチノキなどの木々
から降りそそぐ、ひんやりと心地よい空気に歩く力の元をもらい、早朝の森の中、鳥や
カモシカなどと同じ自然の一員となる。

見おぼえのある木々が、懐かしい昔のひとこまを思い出させ、倒木や新しい道標が、
時の流れを気づかせてくれる。昔と変わらぬチブリ小屋に着いたのは9時過ぎ。一人で
泊まったという60代の男性が市ノ瀬向けて降りていった。この時間になると、前夜、南
竜に泊まった人が次々と降りてくる。中には30人くらいのグループも。チブリ尾根も結
構利用されるようになったものである。

ルリビタキやメボソムシクイの声の他に、キツネ、テン、オコジョの足跡や糞を道に
見つけながら、御舍利山にはチブリ小屋から1時間45分で着く。登山道のまわりは、ま
だ雪が解けて日にちがたっておらず、コザクラやイチゲがいっぱい咲いていた。別山神
社の石の囲みの中で休んでいると、次から次へと人が来て、正午には20人以上になる。

ゆっくりしたかったが、入道雲が次々と上がりだしたので、南竜向けて出発。ほとん
ど休まずに歩いていると、油坂の頭で雷が鳴り出した。降りきった赤谷で、顔を洗い、
最後の坂を上りきると池塘のある広々としたところに出る。そこから見失いそうな道を
キャンプ場めざしていくと、ケビンに到着。すぐ前のサイトで、早く着いた仲間がテン

トを2つ張っているところであった。別山から1時間45分で着いたことになる。

その夜は、飲むペースがはやく、いつもになく酔ってしまい、部屋の隅で一足早く横になる。3時ころだったか、外に出ると星を見上げている何人かがいた。夏の星座ではなく、何がなんだかわからなかったが、ペガサスを佐野氏が教えてくれた。

8月6日

4時05分キャンプ場出発。ライトを照らし、10人あまりで御来光を見に展望歩道を行く。途中の沢には、まだ大きな雪渓が残っており、水は流れていなかった。45分で展望台到着。空の雲が焼け、北アルプスや乗鞍、御岳がはっきりと稜線を連ねており、なかなかの眺め。5時過ぎに水晶岳の少し南から太陽が出る。その後、展望台付近のお花畑を見て南竜へ戻る。

朝食のあと、観光新道組や頂上組を見送り、最後に森川さんと2人で出発し、砂防新道を下る。ゆっくり、のんびりと歩き、3時間かけて別当出合到着。そこには伊豫さんが、すでに着いてから1時間になるといいながら服を干しておられた。このあと、森川さんと2人、白峰の温泉に入り、林西寺の下山仏を拝観してトチ餅を買い、鳥越で蕎麦を食べて金沢へ向かった。

2日間の白山で、山歩きの体力が少しは戻ってきた気がする。夕方になると、まだまだ正常ではなくなる体であるが、これから月に2度くらいは山歩きをしようと思う。9月の小屋作業にも、できるだけ参加したい。



バン

今年の夏

15期 鈴木 良紀

8/5 別当出合-エコーライン-御前峰-南竜

8/6 南竜-黒ボコ-観光新道-別当出合

昨日、お盆休みに「我が家の短足犬を、浜名湖で泳がせる」というイベントをすませ、帰ってきました。ドライブ疲れで、本日は左肩痛と右足疲労に悩まされています。

その前の、本夏のメインイベント、白山より帰った翌日も、両足痛のため階段の登り下りに苦労しました。

寄る年波というより、日頃の不摂生のためと考えています。暑くなってから、昼夜ともエアコンの効いた室内。殆ど唯一の外気浴が、犬のトイレのお供で、夜、近所を歩く時でした。

本年の15期会参加は、体力的にも、日程でも無理と、もともと諦めていました。上記の宿泊イベント宿泊予約の方は、昨年8月のうちにいれてあり、小生の代理医師に、その間の留守番をまず依頼していました。

ところが、春のお花見金沢行きを雨で流してしまい、白山行き案が急浮上。ダメもとと、彼に留守番の日程を打診したところ、簡単にOKされ、小生が留守の間の診療も、父が引き受け

てくれることになりました。

最後に南竜へ行ったのは23年前です。体力的な自信は全くありませんが、状況の方は整ってしまいました。この機会を逃すともう登れないかと思い、参加を決めました。

返事をした後は、かつて小生があきて放り出し、こどもが受験間の体力維持に利用していたエアロバイクを漕ぐようにしました。当時に比べ体重が10キロ程増えていますから、荷物も減らすよう工夫しました。

実際の山行きは、宇野君の配慮により、前夜は白峰の快適な民宿泊り、早朝涼しい内に登山を開始するなど、好条件で行なわれ、人・白山との逢瀬を心ゆくまで満喫しました。

奥名・松林・上馬・舟田さん、金沢の面々ありがとうございました。

成り行きで、来年の15期会の幹事を引き受けることになりました。皆さん心配している事と思います。他の近畿のメンバーと相談しながら企画を立てたいと考えています。

余談ですが、我が家の短足犬。慣れぬドライブと強制された犬かきに苦しみ、神経性の下痢を起こしています。



【黒ボコ岩前の15期連。
現役時代には意外と
ここは通っていない。
それに縦割りPの為
同期が揃ってのこん
なシーンもなかった。】

舟田 間所 高村 宇野
奥名 宇野 宇野 鈴木 佐野

15期 佐野 哲雄

8/5 別当出合→エコーライン→室堂→南竜
8/6 南竜→黒ボコ→観光新道→別当出合

事務局長の魅力をも金沢駅で振り切り、悪天の中を無理矢理登った幻の35周年以来の白山でした。あの時は強風と雨とガスの中、南竜の食堂で、自然観察員の解説付きのスライドを見たのですが、今回は贅沢なことに、帰路ずっと解説付きで白山を楽しむことが出来ました。白山で私の好きなアングルはエコーラインの登り口付近から南竜方向をみたところ。山々に囲まれた緑の楽園の様にみえるところが何ともしやホッとします。

さて、室堂では、平成14年の夏オープンに向けて工事の真最中でした。

商売柄、建築中の現場があると排水処理施設がどうなっているか気になってしまいます。

公共下水道の無い地域で、建物をたてる場合、建築用途、排水量に合った、排水処理施設を設置しなければいけません。（例外もある）もちろん室堂は公共下水道に繋がっていないので排水処理施設が必要になります。

現場を覗いてみると、合併処理装置工事とありましたので、トイレ・洗面・厨房・風呂等の排水を全て処理する装置が設置されるようです。

ところで山岳地帯での排水処理では次の様な項目が問題となります。

1. 設置スペース
2. 動力（電気）の確保

電気は必須条件、自家発電・自然エネルギー（太陽、風力）が必要となる。

3. 流入水の季節変動・週変動

4. 汚泥の処理

場外搬出の方法（ヘリコプター）

5. 放流先の問題

処理水といえども、そのまま放流すると生態系に大きな影響を与える。窒素、磷は除去されにくいので、高山植物には悪影響大。もちろん飲料にも不可。

高度処理には費用がかかり過ぎる。

6. 維持管理

有資格者の定期的な保守点検が義務付けられている。

7. 諸々費用（全てがコスト高になる）。

快適さと、お金と、自然保護、いつも悩まされる問題です。

設計図を見ないと何ともいえませんが、白山に優しい、排水処理施設・システムであることを願うばかりです。

奥名 会長 殿

CD-R 有り難うございました。

とても良い出来です。家族も一度白山に登ってみたいと言うだけは言っております。

— ほかほか線で白山へ —

15期

間所 新一

8/4 東京駅—金沢—白峰（山和荘）、8/5白峰—別当出合—砂防新道—エコーライン—室堂—御前峰—南竜、8/6南竜—黒ボコ岩—観光新道—吉野谷村（温泉）—金沢—東京

佐野君と東京駅で待ち合わせ、ほかほか線経由で一路金沢へ。金沢到着は17:30。宇野君ファミリーが車で待っていてくれ、ほっと一安心。

大阪からの鈴木君も合流し、駅のコンビニでアルコールの買い出しをし、20:00頃白峰山和荘到着。

鮎、かた豆腐、トチもちなどの地元料理に大満足。この民宿は宇野君が、インターネットで見つけたものだが、聞けば上馬君もよく職場の歓送迎会等で利用しており、白峰の中でもお勧めの民宿とか。

翌朝6:00白峰出発。別当出会で13期の吉田穂積さんにお会いし、一緒に登る。明け方の涼しい中を順調に登り9:00頃基の助到着。

エコーラインの上り口にザックを置き、室堂へ。途中の弥陀が原はすべて木道となっていて、その必要性は理解しつつも、何か味気なさを感じてしまう。室堂で昼食。そして、お楽しみの冷たいビール。

室堂改修の資材を運ぶヘリが、間断なく飛んでいる。白山もどんどん変っていくのは仕方ないのか？ 一年の合宿トレで四塚のお花畑の中でテントを張ったのがなつかしい。

昼食後穂積さん、鈴木君、間所の三名は御前峰へ、宇野君父子、佐野君は先に南竜へ。御前峰はいにくのガスで、アルプスの山々は望めなかったが、何年ぶりに頂上まで来れたことに満足する。

帰りのエコーラインを下り始める頃から、雷鳴が鳴り始め、雲行きもあやしくなってきた。ザックを置いて全くの軽装で登り始めたことを、多少後悔する。何とか雨に会わずに無事エコーラインの上り口にたどり着き、奥名会長、松林ファミリー等の本隊に出会う。

南竜到着。15期意外にも見慣れたOBの方々が既にたくさん到着されていた。田村教祖の運び上げられた超特大スイカを冷やすために炊事場に運ぶ時、周りの登山客からウオーという羨望の声が上がる。教祖の元気に感服。

夕食後バンガローでの恒例の宴会。宇野君お勧めのすだち酎の南竜の冷たい天然水割で気分よくなる。前夜の白峰の夜更かしもあり途中からは半睡眠状態となり、途中でテントに移り就寝。

4時頃、人の話し声で目が覚め外に出ると、満天の星。星座の名前を忘れたことを除けば、きらめく星座は、最初に白山に登って感動した時と少しも変わらずそこに有った。

今回の花、星、人 in 南竜では、南竜での活動はもちろん、行き帰りの足にいたるまで奥名会長

はじめ舟田事務局長他の多くのOBのお世話になりました。

おかげで、なつかしい白山に久しぶりに登り、思い出を懐かしむことができました。ありがとうございました。

次は「エベレスト」か！

15期 宇野 潔

白峰の「山和荘」（やまわそう）はお勧めです。料理が非常に良くて一泊2食7500円です。道に迷って遅くなり、じっくり味わえなかったのが残念でした。15期遠方組（間所、佐野、鈴木と私）は、白峰の民宿で一泊し宴会もそこそこに、明日に備えました。

熟睡した佐野君をトップになんと3ピッチで基の助へ行ってしまったのです。学生時代でも出来なかった快挙かも知れません。同行した13期穂積さんもとんだ迷惑で、早い早いと言っていました。しかしその後疲れが出て、私と佐野君は御前峰を目の前にして、娘が疲れた事を理由に頂上に登らず集合場所の南竜に戻りました。

その後、同期や先輩、後輩との、気の置けないワンゲルの懐かしい空気とともに、白山の自然の中で過ぎて行った2日間は、久しぶりに充実した時間でした。帰りに寄った「手取温泉」もよかった。

・・・というわけで楽しい3日間でしたが、好天に恵まれながら頂上を踏まない山行きとなってしまった事が少し悔やまれています。帰って来て、何気なく読んだ夢枕漢の「神々の山稜」が追い打ちをかけました。「鍛えればまだやれそうだ」との思いがくすぶりにかけています。

上記本を読んで、節子ちゃんの紀行文を読んで、思いは、次は「エベレスト」です！

あ！、その前に御前峰に借りを返さねばなりません。休日ジョギングの再開です。

25年ぶりの白山

17期 宇野 和子

“今年の夏は白山に登るぞ”という夫の言葉によく考えもせずOKしたものの、最後に白山に登ったのは、... 25年前の様な気がする。その後は近くの山でハイキング程度の事しかしてない。それなのに、お気楽お婆さんは何とかなるさと準備を開始したのです。

まず、ポーターとして妹（某大学ワンゲル出



身体力、山行歴共に私より豊富)を手配しました。靴も購入しました(私の山靴は、とっくの昔に処分してしまったので)。付け焼き刃は役に立たないと思うけれど、マンション6階の我が家までは階段を使う事にしました。あとは当日のお天気次第...

そのお天気に恵まれ、久しぶりの白山は30年前の合宿トレよりずっとラクでした。妹が一生懸命説明してくれたお花の名前はなかなか覚えられなかった(最近記憶力が落ちた)けど、いつの間にか南竜に到着していて、私もまだまだ捨てたもんじゃないわとつぶやいたのでありました。

他のメンバー(15期4名と13期吉田氏、そして我が末娘)が山頂アタックを試みる間に留守部隊としてはテント設営にとりかかりました。おぼさん2人がエッチラオッチラ、テントと格闘している所に近づいてきた1人のオジサマ、"あんた達テントの張り方知ってる?"その方が大先輩の伊予氏とは露知らず、一応知ってますけど... (だって元ワンゲルだもの)と言いながら張り方の順序を教えていただいた。その直後、偶然出会った11期森川氏に御挨拶しようと近づいた時、森川氏の視線は私たちを通り過ぎて後ろのオジサマへ。お2人の会話でようやくその方が私の10年上の大先輩である事がわかり、ハハッと思わず最敬礼でした。

そんな大先輩とも、一度酒宴が始まれば気軽に話せて話題の尽きる事が無い、こんなOB会の楽しさは現役時代には想像もしないものでし

た。今年はお花もきれいだったし、先輩後輩との交流もできたし、学生のころより数キロ増えた体でチャレンジした白山は正解だったと言えます。

末っ子にも白山体験をさせてやれたし、唯一達成できなかったのは私の減量ぐらいでしょうか。

いずれにしてもミレニアムの一大イベントであったことに間違いありません。また次の機会に元気な顔で再会できることを願って、心のアルバムを閉じようと思います。

空が近くに見えました

宇野 春菜

今回、父と母に「白山に登るゾ!」と言われた時、かなりめんどくさいと思いました。疲れるのが嫌だし、山って虫がいるから嫌だしとかなり不機嫌な私でした。

だけど、いざ登るとなると私はやる気満々でした。「私はまだピチピチで若いんだから意地でも登る!」といつもの負けず嫌いが出たのかも知れません。

だけど、白山で見た空には感動しました。前から好きだった空をこんなにたくさん見れるなんて、すごくうれしくて疲れた事も忘れてしまいました。山の上は高く、私の視界をさえぎるものは何もなく、空がとても近くに見えました。手を伸ばしたらあの雲がつかめるんじゃないな



吉田 奥名 高村 松林
間所 椿川 宇野 佐野 田村 松林
伊予 宇野 青柳 松林
宇野 岡部 大西 上馬
大西 岡部 岡部 大西 大西 舟田 森川
井上 斎藤

【ミレニアム白山はこれにて解散。また会う日まで!】



いかと思うぐらいに。雲より高い所にいるなんて信じられなかった。あたりを見渡せば、一面の空色と花の色と雲と緑だけ。

山の上ではすごくゆっくりゆっくりと時間がたって行って、時計を見ようなんて思いませんでした。騒音の中で生活している毎日とはちがう、川や鳥や草花の音が私には新鮮で心地よかった。あんな大自然をまんきつ出来るんなら、白山も「けっこうイイではないか」と今では思っています。頂上に行けなかったのが残念で、必ずもう一度いきたいと思います。

意外性のある出会い

山田 郷美

旅の醍醐味は、「意外性のある出会い」だと思うのです。今回の山旅でも、たくさんの思いがけない出会いがありました。

- その1. どこに入っていたのか謎を呼んだ
「巨大スイカ」その甘さと大きさは
感涙ものでした。
- その2. 大自然に触発されたのか、野生もしくは青年に戻る人々。
- その3. 20年ぶりに夢中にさせてくれた家型テント
- その4. 春夏秋が一斉開花したお花畑。
後で聞いたところでは、今年は格別
だったようですね。
- その5. 撒収と朝食準備で賑わうテン場を泡
を食って駆け抜けて行ったウサギ
「ナンヤネン、ナンヤネン、ドナイ
ショー～」と言ってました。

花も、雨も雷も、そして皆さんの姿も、昨日の事のように思い出されます。

楽しい山旅に御一緒させていただいて本当にありがとうございました。



キヌガサソウ

きわめつき

15期 舟田 節子

「フィルムが落ちてるわよ」「あら、撮影済みだわ」おばさん達が騒いでいる。

ここは殿ヶ池ヒュッテ。私が腰を下ろす前からその騒ぎは始まっていた。だから、全くの他

人事で静観し、そこから出発前にはとりわけ、慎重にフィルム交換もやり、しかとサイドポケットに撮影済みを収めたのだ…。まさかまさか、それが、私のバックポケットからこぼれ落ちたもので、当人より先行しておばさん方の足元にころがり至っていたとは知るよしもない。

ようやく辿り着いた別当出合。バックポケットのチャックが半開きになっている…不吉な予感。いや、ちゃんとフィルム類はサイドに決めてたよ。でも、ケビン前での記念写真のあと、花園へ行くという森川さん達を追っ掛けた時に、とりあえずバックの方へ入れちゃったような気もするなあ…。

帰宅後、祈るような気持ちで片づけをする。撮影済みは3本…。ん？少ない。ますます厭な予感。あれがそうだったとしても…記念写真の分でなければ、ま、いいか。

翌日さっそく、同時プリントへ。うんうんまあまあの出来。ギャー、やっぱりない！あれが記念写真のフィルムだったんだ。ちつきしょう、あん時、ちょっと、「え、どれどれ？」と、見てさえいえば！だって、騒ぎの方が先だったんだもん。自分だなんて思わないよ！

ともあれ鶴来署へ電話。白山での落とし物ならと、市ノ瀬案内所を紹介される。

「昨日の午前10時半頃、殿ヶ池ヒュッテの前で落とししたんです。」こんなに、場所も、時間もきちんとわかっている落とし物なんて、やったことがない。「それらしいのが、届いていますが、外見は？」「白に紫のバトロネです。」「それなら、これで間違いないようですね。受け取り人払いで送りますから、現像して確かめて下さい。」

という経緯で、その記念撮影フィルムは、水曜日に届いたのだ。同時プリントに出し、ケビン前の31名の笑顔を確認した時の安堵は忘れられない。「そうだよ！みんなに、ミレニアム白山をお膳立するような善女に、悪いことおこるはずないよ！」と、嬉しさのあまり言ったら、息子の聲を聞いてしまった。

ともあれ、そんな間抜けなハプニングのために、ミレニアム白山は、私にとってさらにきわめつきの白山になってしまった。そして、聖書にある「無くなったと思った息子が、生きて帰ってきた」という一節を思い起こしていた。単に現像して、で済んでしまう筈だったことに、天と地の思いを味わったから。感謝の種はそこらじゅうにあるものなのだ。

それらの写真は、いつものごとく、木曜日に

は、原稿請求同封で、参加者に発送されました。多くの方のフィルムがまだ、カメラに入ったままであったろう、行事4日後のことです。

したがって、以上のようなハプニング経由であったことは、どなたも感知できなかったことでありましょう。しかし、ここに暴露してしまいました。なんといったって、これが、「きわめつき、ミレニアム白山」でしたから。

もう1回記念写真を見てみて下さい。白山権現の後光を感じるでしょう？！

FROM:Masaaki Ohnishi

SUB:お礼

18期 大西 正明

”花・星・人in南竜”お世話になりました。事務局、幹事の方に改めてお礼申し上げます。早速写真と原稿依頼を送って下さいまして、誠にありがとうございます。妻（菊路）、次女（沙紀）、三女（真実）に感想文を宿題として与えましたので、たぶん書いてくれるでしょう。沙紀は当パーティの記録係として、克明にノートをとっていたので、期待できるでしょう。

2日目の行動をお話しします。

エコラインより室堂に出る。この時期にもかかわらず、お花畑はたくさんの高山植物が咲き誇っていた。登りの辛さを忘れさせてくれた。妻も娘もいたく感激していた。私は花の名前を尋ねられ、いい加減な答えをしたため、以降彼女らは私に訊かず、椿川と岡部に質問を浴びせていた。（クロユリ、ハクサンコザクラ、ニッコークスゲ、チングルマ…あと10個くらいかな。父のレパートリーは）

室堂を出発する頃から頂上はガスが出始め、展望は期待できないと思ったら、御前峰は案の定。翠が池の雪渓で、岡部の持参してくれた小豆缶とフルーツ缶でフラッペを。（こいつは相変わらず気の利く奴だ。）子供達はこれにも感激。

下山の途中雨がぱらつき始め、室堂に着いたら本降りになった。通り雨と考え、昼食後、小降りになるのを待って、黒ボコ岩コースで下山開始。直後、雷が鳴り始めた。雷鳴は近付く、雨は激しくなる、休む所はない。子供達は大丈夫だろうか。小学3年生が二人いるし、沙紀（中1）は指を怪我しているし（登山前から骨折していた。それでも連れてきてしまった）、んーまいったなと思いつつ歩き続ける。

子供達はよく頑張った。土砂降りの中で水浸しになりながらも、登山道が川のようになっても、1時間20分、甚ノ助ヒュッテまでよく歩いた。（この日、増水で百万貫岩で孤立した人が

いたそう。谷川岳で鉄砲水のあった日）

甚ノ助3時半。今度は最終バスに乗り遅れそう。ペースをあげて、更に下山。自分の膝もガクガクきてる。みさきちゃん（岡部の娘さん、小学3年生）、真実（同じく3年生）は大丈夫かな？

雨が上がった。90人の団体が今頃登ってきてる。このおっさん、おばはん連中を待たにゃならん。早う通り過ぎてくれ。

別当出合着、5時20分。ぎりぎりセーフ。疲れました。妻（もちろん主婦専業。体力などありゃしない）も、子供達もよく付いてきてくれた。

さて翌朝、身の入った足を這うように、車の乗り込み、大阪まで運転。午後、出社。男はつらいよ。翌々日、翌々々日、階段を降りるのが大変。歩いて10分の所へ行くのもタクシーに乗る。

妻も子も、「また白山に連れてって」とさ。

以上で、私の宿題はおしまい。また、素晴らしい企画をお願いします。（我が家族はどうやら白山がすこぶる気に入ったようです。ありがとうございました。）

いつもお世話になりありがとうございます。先日の白山登山では家族ともども本当にお世話になりました。お礼申し上げます。

さて、事務局長殿のご依頼の件、夏休みの宿題に課した作文が出来上がりましたので、お送り申し上げます。eメールにて送ろうかとも考えましたが、手書きそのままの方が、感動と感謝の意も伝わろうかと思い、原文のまま送らせていただきます。

残暑厳しき折、ご健康に留意され、ご活躍されますようお祈り申し上げます。

増水、中州に一家孤立

白峰の
百万貫岩
4人を無事に救出

六日午後三時二十一分ごろ、同部が一時的な増水の危険があると判断し、自ら、石川県白峰村市ノ瀬の手取川で、松任市山島台六丁目、会社員倉田正行さん（五）ら家族四人が濁流のたもて、通称・百万貫岩の中州に取り残されているのを警戒中の白山消防署白峰分署員が見つけた。白山消防署のレスキュー隊が出動、河川敷と岩をロープで結び、午後四時十九分に救出を完了した。倉田さんらにけがはなかった。

北電手取電力部（吉野谷村）が市ノ瀬地区に設置する雨量計が一時間で十五リを記録するなどした

六日午後三時二十一分ごろ、同部が一時的な増水の危険があると判断し、自ら、石川県白峰村市ノ瀬の手取川で、松任市山島台六丁目、会社員倉田正行さん（五）ら家族四人が濁流のたもて、通称・百万貫岩の中州に取り残されているのを警戒中の白山消防署白峰分署員が見つけた。白山消防署のレスキュー隊が出動、河川敷と岩をロープで結び、午後四時十九分に救出を完了した。倉田さんらにけがはなかった。

倉田さんによると、百万貫岩を近くで写真に収めたという。

ようとして河川敷から中州に渡った約五分後に、急に濁流が押し寄せ、水かさが増したという。白山消防署によると、百万貫岩の上流に数本の谷川が合流して流れ込む地形があり、局地的な大雨が降ったことを知らない行楽客らが中州に取り残されるケースがこれまでにも何度かあったという。

北 国
平成12年
(2000年)
8月7日 (月曜日)

「白山登山」

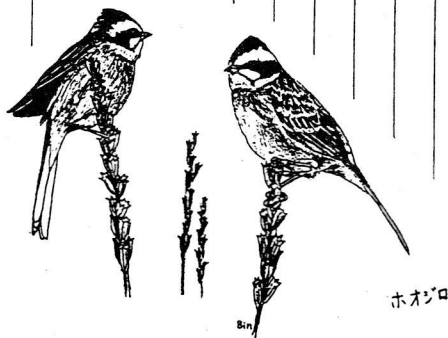
大西 菊路（8期大西・あ）

今日の登山に、お世話をしてくださった皆様、大へんお世話になり、本当にありがとうございました。とても楽しく登山ができて、これから感謝しています。

南竜山で食べたスイカ、めちゃくちゃおいしかったです。「白山の歌」は、主人がよく歌っていたので、自然に覚えてしまった。ですから皆さんとついでに歌うことができました。白山のお花畑は、最高ですね。色とりどりのかわいらしい花が、たくさん咲いていて、少しは名前を覚えましたが、頑張ってもっと覚えるつもりです。

二七〇二の白山に登った私の中には、達成感と満足感があった。充実した気持ちです。下山のときは、思わぬ雷雨に会い、頭の上から足先まで、びしょびしょになりました。子供たちも一生懸命歩いてくれて、無事、別当出合に着いたときはほっとしました。今思うとすごい体験をしたように感じます。

魅力いっぱい白山が大好きになり、又登りたいと思います。



白山

大西 沙紀（8期大西・あ、中）

「うわあ、キレイっ。お母さん空見てっ」思わず声をあげてしまった。

暗い空に小さくみえる光りの粒。それは、無数に輝く星でうまれた夜空の少女だった。

「新世界だ……」私は空から離れられなかった。今自分がここに立っている事が素晴らしい。空は私の思いにこたえてくれたのか、流れ星までプレゼントしてくれた。感動にひたたま、目が覚めて起きてみると、あの吸いこまれそうな空の少女はなかった。

「ついたあーっ。頂上。」

この先には上はない。登りきった感動は以外に後からおし寄せてくるものだった。あにく頂上には雲がかかっていて晴れた景色は見れなかった。

「やっほー」「やっほー」「やっほー」「やっほー」妹と二人で叫びまくった。「この声で雲がふき飛んでくれればなあ」と言う私の思いを乗せて。

コーヒを飲んだと雲が切れて晴れ間がでてきた。そこには、あの夜空とは別の、もう一つの空の姿があった。

今回、お世話をしてくださった方々には本当に感謝しています。こんなにたくさんの方々の思い出がくれたのも皆さんのおかげだと思っています。初めて感じた快感や楽しかった思い出を本当にありがとうございました。

山登り 大西夏実 (18歳大西の三子、小三)

わたしは 8月5日 6日に2702mの白山に登りました。さいしは、しんどかったけど、パンを食べたなら、元気になりました。どんどん登っていたら、いい景色でした。かけもありました。こわか、たです。

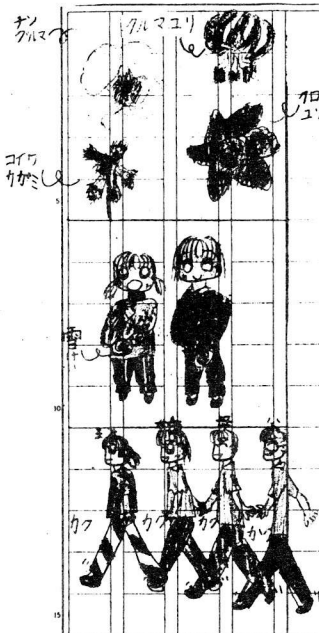
2時ごろ南りう山そうにつきました。5日は、このテントでとまりました。5日の夜、みんな食べたスイカはとてもおいしかったです。そのあと星を見ました。たくさんあてきれいでした。

次の日、ちよう上をめざして登りました。と中、お花畑がありました。チングルマやクロユリがさいました。ほかにもいろいろさいてました。ちよう上につきました。

前よりも、も、といいいけ色でした。でもきりがあて少ししか見れませんでした。ちよう上に着いて思いました。「や、たー、ちよう上に着いたぞ。うれしかったです。ちよう上に着いてから、少し休んで雪けいの方へ行きました。そこで、きれいな雪けいを食べました。かき氷みたいで、おいしかったです。そのあと雨がふてきました。急いでもどりました。や根のある所で休みました。雨は、どんどん強くなてきました。

お父さんが言いました。「これ、はやみそうもない。て言いました。カッパを着ました。そして急で下りました。なんだか、川の中を歩いてるみたいでした。のしか、た。またや根のある所で

休みました。自分のズボンを見たら、びちびちでつめたかった。また下りはじめました。と中、つり橋がありました。わたてるとき、下を見たら、こわかったです。一番下につきました。一番下についてたら、「はあ、つがれた。とわたしと姉は言いました。バスがきました。そのバスに乗て、ちよう車場までいきました。着きました。そこで車に乗て、帰りました。その次の日、足がかかくして歩きにくかったです。



白山から下界へ戻られた皆様

その後いかがお過ごしでしょうか。

当地金沢では連日真夏日、熱帯夜となりこれほど暑い夏は記憶にありません

(ボケが始まったと表現する人もいる)

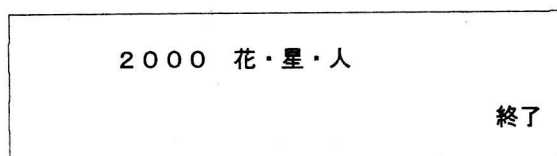
ささやかな記念品をお送りしますのでご査収下さい。

以下、記念品の説明

1. CDを入れると自動で起動します。

(パソコンに入れて下さい)

2. 次の画面が表示されます



3. 2000 花・星・人をクリック(左)して下さい。始まります。

4. 終了したい場合には 右クリック して下さい。操作メニューが表示されます。

そのなかの「終了」をクリックすると

上記と同じ画面が表示されますので 終了をクリック(左)して下さい。

5. その他の操作は 右クリックで 表示されますのでそこで選択してクリック(左)して下さい。

(画面のマウスポインタを移動させても一部の操作はできます)

6. ごゆっくりお楽しみ下さい。

Photograph: Okuna Masataka

Composer : Okuna Masataka

BGM : キロロ「長い間」

Copyright ; Okuna Masataka

Director : Okuna Masataka

Date : 2000.08.05~06

迅速に写真を送り付け、驚愕のうちに、原稿依頼を済ませてしまうのが事務局長の得意とする所ですが、(そう、生徒に頑張りシールをあげる日は、即ち、月謝袋が挟まれている日なんです。)このプレゼントにはびっくりしました。

自分達が主役の画面が出て来る。ビデオがとくにそうかもしれない…でも、しばし、風に吹かれて景色を眺めていたい登山には、この静止画像のベースとBGMの方が、何か相応しく、記憶を重ねるだけの余裕もあって、ぴったりの気がしました。

野沢スキーの時も、加藤父さまの編集ビデオが皆さんを唸らせました。

ワンゲルOBってすごいですね。遊び心があって、みんなをアッと言わせて、それをまた、楽しむ。生きる達人なんだって思っています。

IT革命を恐れる方、何も恐がることはないんですよ！(但し、本人はちと留っただけ)遊ぶ道具と思いなさい！その為には…まず、行事に参加して楽しむことです。